

---

## 中学生にとっての読書

---

### 目次

要約とまとめ .....	2
<b>第Ⅰ章 本を読むのが好きか</b>	
1. 全体のプロフィール .....	4
2. 本を読むのが好きか .....	8
3. 好きなジャンル .....	12
<b>第Ⅱ章 どんな本を読んでいるか</b>	
1. 雑誌との接し方 .....	17
2. 文学との接触 .....	21
3. 作家の知名度 .....	24
4. 読書についての考え方 .....	28
<b>第Ⅲ章 読書好きを育てる環境</b>	
1. 図書館の利用 .....	35
2. 本好きの親かどうか .....	38
3. 本を読むためのしつけ .....	43
資料1 調査票見本 .....	48
資料2 学年・性別集計表 .....	62

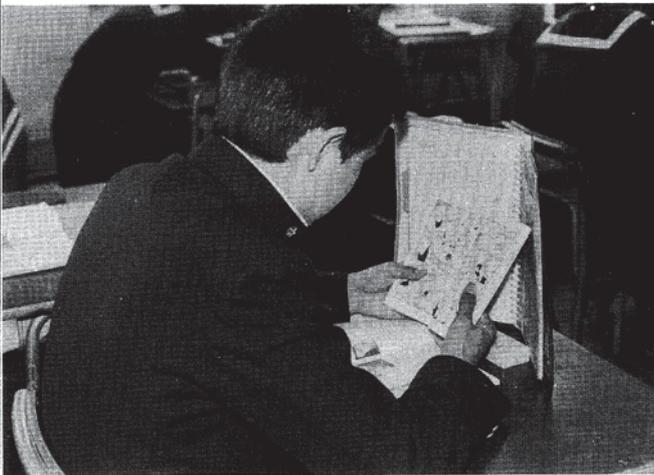
---

\*おことわり：本文中に使用した写真は、本文・テーマとはいっさい関係ありません。

---

# 要約とまとめ

静岡大学教授  
深谷昌志



## ① 本を読むのが好きか

マンガが「とても好き」は59.0%と6割に達するが、本を読むのが「とても好き」は19.7%で、「少し好き」が39.9%である。

(P.8・図2)

## ② 本とマンガ

本を読むのが好きな生徒はマンガを読むのが好き。したがって、本とマンガとは共存関係にある。(P.9・表6)

## ③ 本好きと学業成績

数学の成績は本好きとほとんど関係していないが、国語の成績は本好きと密接にむすびついている。(P.11・表8)

## ④ 読んでいる本

本を読んでいる生徒は少なく、4割以上の生徒が読んでいるのは、『坊ちゃん』と『となりのトトロ』に限られている(P.22・表15)。そして、学年が上がっても、読書量は増加していない(P.23・表16)。受験勉強に追われるためなのであろうか。

## ⑤ 読書についての見方

本を読んでいるれば、ものの見方や考え方が深まるだろう。そして、本好きの生徒は決してスポーツの苦手なネクラな子ということはないという見方である。(P.31・表20、P.32・図10)

⑥ 本好きと家庭の本の多さ

本好きの生徒は、本が多い家庭から育っている。それに対し、本の好きでない生徒の家庭には本が少ない。(P.39・図19)

⑦ 親の本好きと子どもとの関係

親、特に母親が本が好きだと、その子が本好きになることが多い。(P.40・表24、図21)

⑧ 本好きにするしつけ

本好きの子どもは、「本を買ってもらった」「本を読んでもらった」「本屋に連れていってもらった」などの思い出を持つ者が多い。(P.45・表28)

【調査概要】

対象●東京・千葉の中学1・2・3年生  
1,425名

期間●1991年2月～3月

方法●学校通しによる質問紙調査

サンプル構成

(人)

	男子	女子	計
中 1	273	258	531
中 2	264	247	511
中 3	200	183	383
計	737	688	1,425

まとめ

中学生たちはあまり本を読んでいない。特に、学年が上がっても、読書量がふえるどころか、むしろ減少しているのが気がりである。高校受験のために、ゆっくりと本を読む気になれないのであろうか。

それと同時に、本好きの子が本好きの家庭から育っているのも目についた。家庭の読書環境が、本好きな子を育てており、そうした意味では、本好きでない子を育てたのは、本人というより、家庭の環境のあり方のように思われてくる。

# 第 I 章 本を読むのが好きか



## 1. 全体のプロフィール

この号では、中学生の読書について考察しようとしている。結果の報告に入る前に、この調査に協力してくれたサンプルの概要を紹介しておこう。

まず、中学生たちは、表1のように、「とても」の21.8%に、「わりと」の42.0%を加えた63.8%が、学校が楽しいと思っている。また部活動の傾向は、表2の通りである。さらに、塾通いについても表3のような結果が得られている。塾通いをしていない子は25.5%で、塾に週3回以上通っているのは、5～7回7.3%、4回12.3%、3回30.1%で、49.7%と、

半数に迫っている。

そして、帰宅時刻が5時をすぎる生徒も半数におよんでいる(表4)。このように、生徒たちは塾に通うほかに部活動も忙しく、高校受験の勉強に追われている。それだけに、のんびりと本を読むなどというのは理想の姿であっても、現実的には無理なのかもしれない。

なお、生徒たちの現在考えている将来の進路は、表5の通りである。そして、自分自身について、図1のような自己像を抱いている。

(表1) あなたにとっての学校

(%)

とても楽しい	21.8
わりと楽しい	42.0
どちらでもない	22.5
あまり楽しくない	7.6
ぜんぜん楽しくない	6.1

(表2) 部活動

(%)

	全 体	性	
		男 子	女 子
入ったことがない	5.6	5.3	5.8
入ったが現在不参加	22.4	22.1	22.7
運動部・熱心に活動	35.7	42.8	28.2
運動部・熱心に活動していない	19.9	22.0	17.6
文化部・熱心に活動	7.6	2.1	13.5
文化部・熱心に活動していない	6.6	3.2	10.3
その他	2.2	2.5	1.9

(表3) 塾やけいこごと (週)

(%)

行っていない	25.5
1 回	7.3
2 回	17.5
3 回	30.1
4 回	12.3
5 回	4.5
6 回	1.8
7 回	1.0

(表4) 学校からの帰宅時刻

(%)

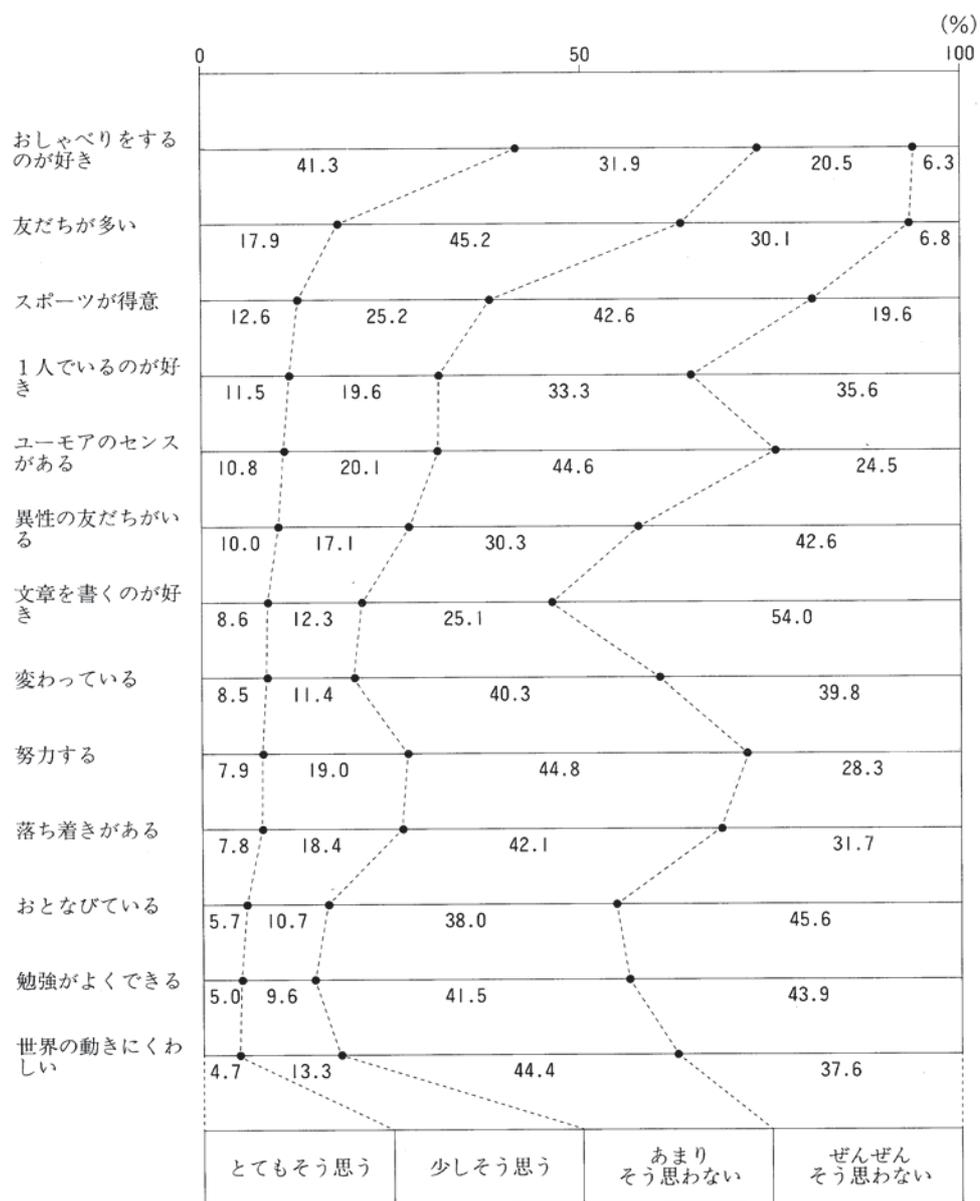
4 時ごろ	36.7
4 時30分ごろ	15.8
5 時ごろ	8.7
5 時30分ごろ	14.0
6 時ごろ	16.9
6 時30分ごろ	4.9
7 時以降	3.0

(表5) 進路

(%)

文系：4 年制大学	16.9
理系：4 年制大学	8.6
短期大学	11.1
各種学校・専門学校	11.6
中学・高校卒業後就職	10.9
未定	40.9

(図1) 自分のタイプ



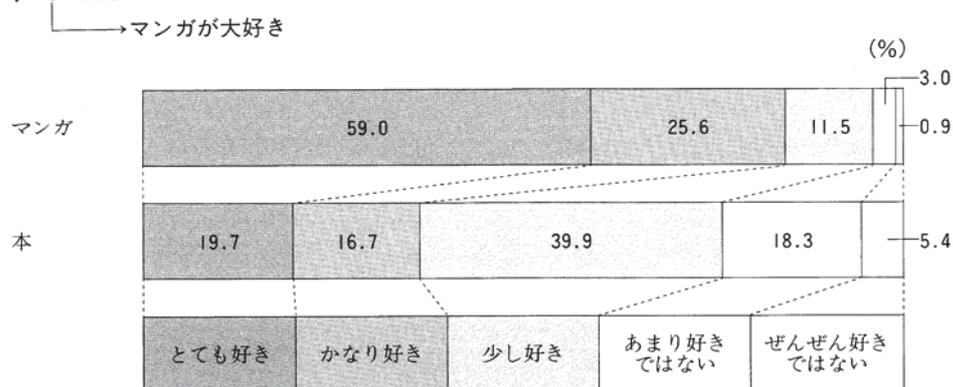
## 2. 本を読むのが好きか

生徒たちに、本を読むのが好きかを尋ねてみた。図2から明らかのように、マンガは、読むのが「とても好き」が59.0%と6割に迫っている。しかし、本を読むのが「とても好き」は19.7%で、「少し好き」が39.9%である。本が「好きではない」生徒は少ないが、かといって、「とても好き」という者も多くはない。全体として、「少し好き」というのが、生徒たちの読書についての気持ちのように思われる。

そこで、本好きとマンガ好きとの関係を調べてみると、表6のような結果が得られる。本が「とても好き」な生徒の79.5%がマンガが「とても好き」と答えている。それに対し、本が「かなり好き」だとマンガを好きな割合は61.1%と減り、本が「あまり好きではない」と、マンガ好きの割合は42.5%にとどまる。

こうした関係は図3の通りで、本好きの子はマンガも好きで、本とマンガとの関係は対立するものではなく、共存関係にあるのがわ

(図2) 本を読むのが好きか



かる。少なくとも、データの上では、本好きはマンガ好きといえるように思う。

なお、教科別の得意、不得意は表7の通りだが、中学生の反応らしく、得意という生徒も少ないかわりに、勉強が苦手の生徒もそれほど多くはない。そして、国語の43.9%のように、勉強の得意、不得意には「ふつう」と答えている生徒が多い。また、性別に調べてみると、全体として男子のほうが女子よりも勉強の得意な生徒の割合が多いが、国語だけは女子のほうが得意という生徒が7.8%ほど多い(図4)。

そこで、勉強の得意、不得意と本好きとの関係を調べてみると、表8のような結果が得られる。表8の左上、45.0%を例にとると、

これは国語が「とても得意」な生徒の中で、本を読むのが「とても好き」な者が13.3%、それに「かなり好き」の31.7%を含めて、本を読むのが好きな生徒が45.0%を占めることを意味する。

とても得意 わりと得意 ふつう わりと苦手  
 国語 45.0% > 32.4% > 22.1% > 14.1%  
 数学 20.1% ≒ 23.8% ≒ 24.6% ≒ 22.0%  
 (本を読むのが「とても+かなり好き」の割合)

上述のように、数学が得意だからといって本好きとは限らないが、国語の得意な生徒の中に、本好きの生徒が多いのがわかる。

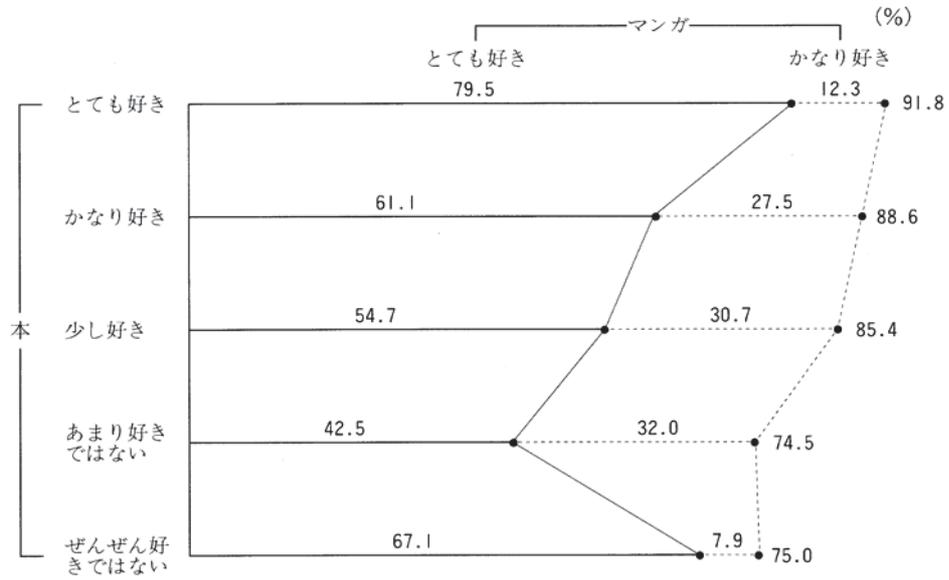
このようにみえてくると、「読書=国語」という感じが、生徒たちのうちに認められるように思う。

(表6) 本好き×マンガ好き

(%)

本	マンガ	好 き			好きではない	
		とても	かなり	少し	あまり	ぜんぜん
とても好き		79.5	12.3	6.1	1.4	0.7
	▽					
かなり好き		61.1	27.5	7.6	3.8	0.0
	▽					
少し好き		54.7	30.7	12.1	2.3	0.2
	▽					
あまり好きではない		42.5	32.0	19.7	5.0	0.8
	▽					
ぜんぜん好きではない		67.1	7.9	9.2	5.3	10.5

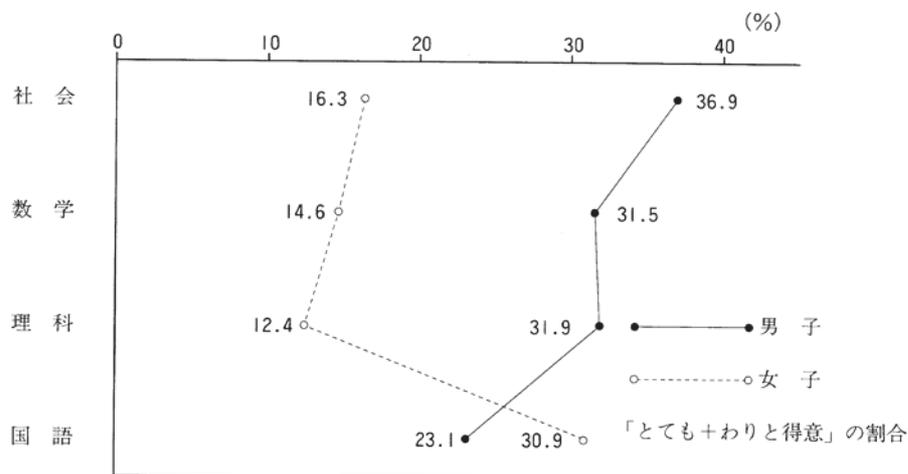
(図3) 本好き×マンガ好き



(表7) 教科

	とても得意	わりと得意	ふつう	わりと苦手	とても苦手
国語	6.6	20.3	43.9	19.6	9.6
数学	7.3	16.1	25.6	25.5	25.5
理科	6.9	15.6	34.7	25.6	17.2
社会	9.7	17.2	29.1	24.3	19.7

(図4) 教科×性別



(表8) 本好き×学業成績

(%)

	得意		ふつう	苦手	
	とても	わりと		わりと	とても
国語	13.3 31.7 45.0	6.0 26.4 32.4	3.9 18.2 22.1	4.3 9.8 14.1	12.0 9.3 21.3
数学	6.1 14.0 20.1	6.8 17.0 23.8	6.2 18.4 24.6	9.4 12.6 22.0	14.7 16.0 30.7
理科	6.5 13.7 20.2	7.2 16.6 23.8	6.2 16.1 22.3	5.9 16.8 22.7	16.0 12.0 28.0
社会	12.9 22.3 35.2	11.1 19.6 30.7	8.1 15.0 23.1	7.8 16.5 24.3	12.0 13.3 25.3

本を読むのが「とても+かなり好き」の割合

### 3. 好きなジャンル

ひとくちに読書といっても、いろいろなジャンルが考えられる。そこで、いくつかのジャンルに分けて、本好きな生徒との関係を調べてみた。

まず、全体としては、表9（図5）のように、生徒たちが、もっとも好きなのは、マンガ、次いで趣味の本。そして、占いの本という感じで、文学や伝記を好きな生徒は「かなり」を含めても1割ほどである。

そこで、好きな本と属性との関係を調べてみると、表10のように、全体としてみると中1から中2、そして中3と学年が上がるにつれて、本を好きな子の割合が減少している。高校受験が迫ってきて、本を読むという気持ちになりにくいのであろうか。それと同時に、性別に着目すると、読む本の内容に性による開きが大きいのが目につく。

女子向き＝少女小説、文芸小説、占いの本

(表9) 好きなジャンル

	(%)				
	とても好き	かなり好き	少し好き	あまり好きではない	ぜんぜん好きではない
マンガ	59.5	20.2	13.4	4.6	2.3
趣味の本	23.2	16.7	27.0	21.8	11.3
占いや霊の本	21.2	19.2	20.6	19.6	19.4
冒険・推理小説	21.1	20.4	26.1	18.4	14.0
少女小説	20.2	9.9	12.5	20.0	37.4
歴史小説	11.7	14.5	26.6	27.9	19.3
文芸小説	5.6	8.8	24.4	35.9	25.3
伝記小説	5.1	9.5	28.5	36.0	20.9
文学小説	3.3	4.2	25.7	43.7	23.1

男子向き＝趣味の本、歴史小説  
 少女小説を女子が読んでいるのはあたり前  
 であろうが、男子向けの本は、それと比べ  
 と、やや少ない印象を受ける。

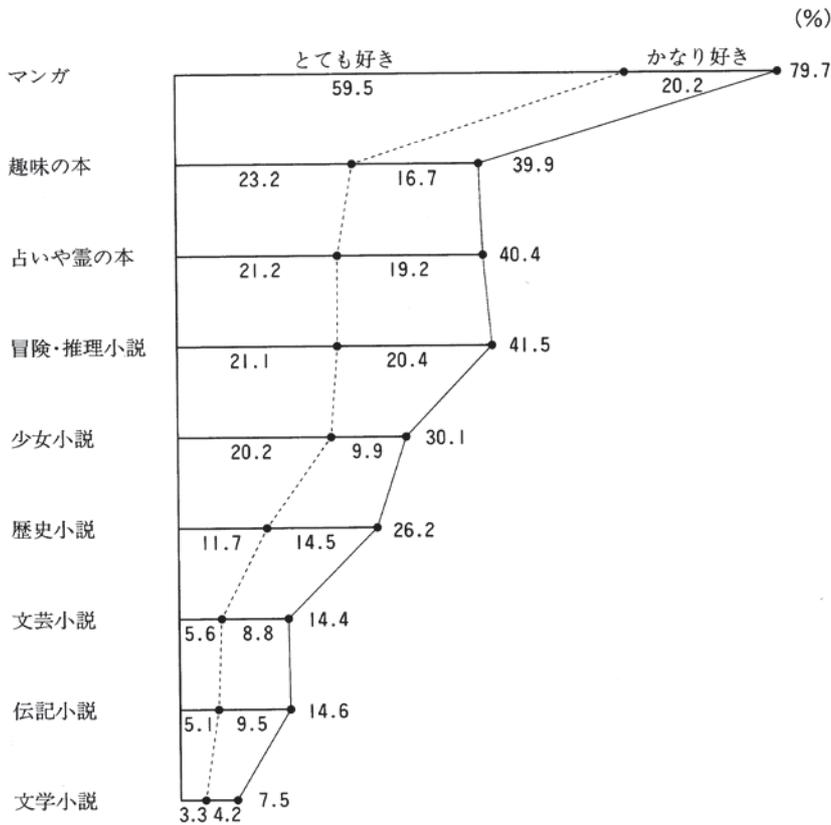
そして、学業成績別にみると(表11)、趣味  
 の本や歴史小説などを読む者に成績上位層が  
 多いのに対し、占いの本や少女小説の好きな  
 生徒は成績下位層に多い。占いの本などは簡  
 単に目を通せるので、読書という感じになら  
 ないのであろうか。

表12に、ジャンルと本好きとの関係をまと  
 めてみた。ほとんどの領域で本好きの生徒は、  
 それぞれが好きと答えており、本好きでない

生徒は、領域を越えて本を好きでないという反  
 応している。

したがって、本の好きな子は、マンガも伝  
 記小説も、文学小説も好きだし、本の嫌いな  
 子はどの本も嫌いという感じになる。そうし  
 た中で推理小説や歴史小説、少女小説は、「と  
 ても好き」と「好きではない」との差が大き  
 い。したがって、マンガや占いの本でなく、  
 きちんとした本を読むのが好きな子が、本当  
 の意味での本好きの子といえるのかもしれない。

(図5) 好きなジャンル



(表10) 好きなジャンル×属性

(%)

	学 年			性	
	中 1	中 2	中 3	男 子	女 子
マンガ	84.7 >	78.7 >	74.2	82.6	76.5
趣味の本	40.6	38.2	41.3	50.8 >	28.1
占いや霊の本	42.6	41.8	36.1	21.1 <	61.0
冒険・推理小説	42.7	37.0	45.4	39.2	44.1
小女小説	32.1 >	29.9 >	27.6	1.9 <	60.1
歴史小説	30.6 >	24.3 >	22.7	41.4 >	9.8
文芸小説	15.0	11.0	18.2	4.4 <	25.2
伝記小説	19.3 >	12.0	11.8	15.4	13.9
文学小説	8.9	5.9	8.1	7.6	7.7

「とても+かなり好き」の割合

(表11) 好きなジャンル×学業成績

(%)

	得意		ふつう	苦手
	とても	わりと		
マンガ	83.6	78.2	83.4	77.0
趣味の本	54.8	> 43.3	> 39.5	> 36.4
占いや霊の本	27.2	< 37.0	39.3	< 43.0
冒険・推理小説	37.5	< 46.9	45.0	< 50.1
少女小説	15.6	< 21.9	< 32.8	< 35.1
歴史小説	41.7	> 30.4	> 25.6	> 23.1
文芸小説	14.5	11.9	15.0	15.2
伝記小説	16.3	18.5	14.5	14.7
文学小説	8.2	8.0	6.9	8.2

「とても好き」の割合

(表12) 好きなジャンル×本好き

(%)

	好 き			好きではない
	とても	かなり	少し	
マンガ	70.7	> 61.3	> 55.9	> 51.8
趣味の本	28.4	16.9	24.0	19.4
古いや霊の本	29.6	> 24.2	> 20.1	> 12.8
冒険・推理小説	55.9	> 27.5	> 11.5	> 3.2
歴史小説	21.6	> 15.5	> 10.2	> 2.8
少女小説	43.9	32.8	13.7	1.6
文芸小説	17.7	> 5.5	> 2.5	> 0.1
伝記小説	10.5	> 8.5	2.9	0.8
文学小説	11.5	> 3.4	> 1.1	> 0.6

「とても好き」の割合

## 第II章 どんな本を読んでいるか



### 1. 雑誌との接し方

これまで読書についての生徒たちの反応を概観してきた。そして、多くの生徒が本好きとはいえないが、かといって、嫌いでもないことを明らかにしてきた。

このところ、中学生のまわりにさまざまな雑誌があるのに気づく。そこで雑誌とのふれ合いをまとめると、表13の通りとなる。『少年ジャンプ』を必ず読んでいる生徒は37.5%、「かなり読む」の10.5%を含めると、半数近い生徒がマンガ雑誌のファンであることがわかる。

もっとも、雑誌の中では、表中の『りぼん』『プチセブン』『セブティーン』は女子向けだし、『少年ジャンプ』は男子向けであろう。

そこで、性別に雑誌との接触をたしかめると、表14のような数値となる。男子の62.3%が『少年ジャンプ』の熱心な読者なのに対し、女子の読者は10.8%にすぎない。その一方、『りぼん』と『プチセブン』の女子の読者は、合わせて36.9%であるが、男子の読者は2.3%にとどまる。

このように雑誌の場合、男女によって接する対象にかなりの開きが認められるが、これを学業成績別に集計してみると図6のような結果が得られる。統計上の数値では『少年ジャンプ』は学業成績のよい子が読んでいるのに反し、『りぼん』の読者は、どちらかという成績のふるわない子に多い傾向が認められる。

(表13) 雑誌を読むか

(%)

	必ず読む	かなり読む	ときどき読む	あまり読んだことがない	ぜんぜん読んだことがない
少年ジャンプ	37.5	10.5	22.0	17.1	12.9
りぼん	11.9	4.7	18.5	15.9	49.0
スポーツ雑誌	7.2	9.0	20.7	24.2	38.9
ブチセブン	7.1	6.0	11.5	9.2	66.2
セブンティーン	7.0	8.0	11.8	9.0	64.2
明星	5.7	5.6	21.2	16.2	51.3
レモン	4.2	5.4	12.2	13.4	64.8
自動車関係の雑誌	4.0	4.6	10.9	16.5	64.0
ノンノ	2.8	4.3	13.7	13.6	65.6
コロコロコミック	2.1	2.6	14.8	31.4	49.1
おとなが読む雑誌	1.9	2.6	9.4	20.5	65.6
写真週刊誌	1.6	4.7	15.1	21.8	56.8
アンアン	1.0	2.3	9.1	14.8	72.8

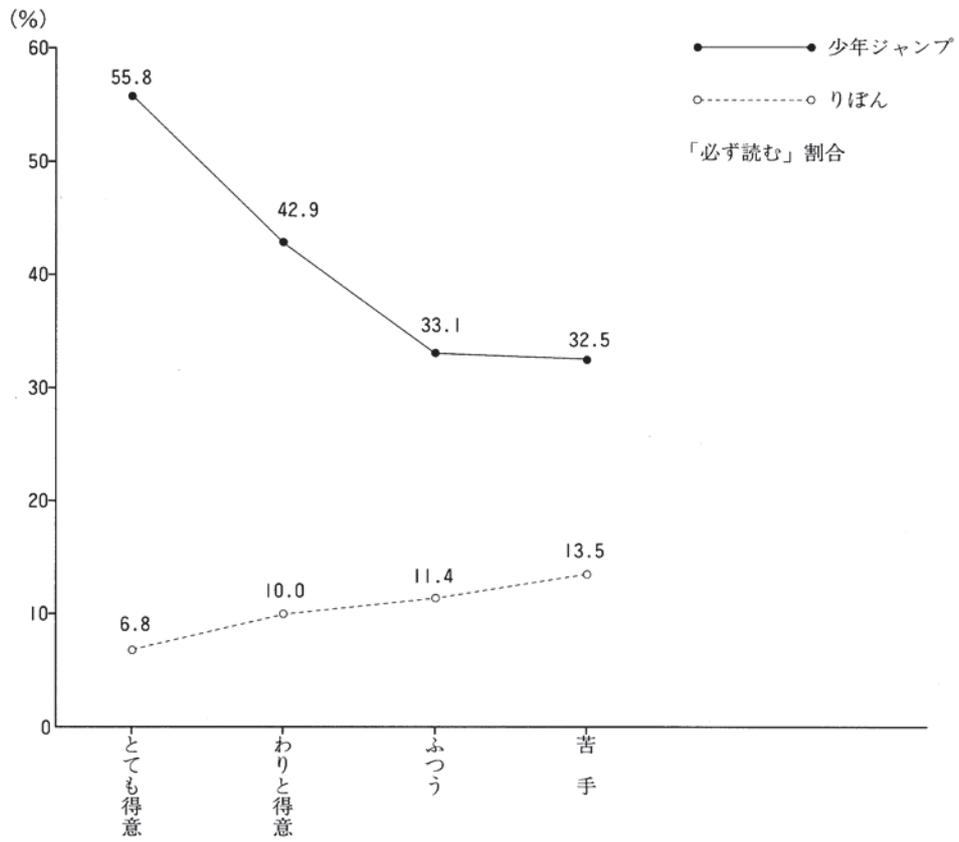
(表14) 雑誌を読むか×属性

(%)

	学 年			性	
	中 1	中 2	中 3	男 子	女 子
少年ジャンプ	38.1	39.6	34.6	62.3 >	10.8
りぼん	18.2 >	10.1 >	5.2	1.7 <	22.8
スポーツ雑誌	6.5	7.9	7.4	11.2 >	2.8
プチセブン	4.0 <	8.7 <	9.1	0.6 <	14.1
セブンティーン	4.2 <	8.3 <	8.9	0.7 <	13.7
明星	6.6	5.2	5.0	1.0 <	10.8
レモン	6.1 >	3.4 >	2.6	0.4 <	8.2
自動車関係の雑誌	2.5	3.8	6.5	6.5 >	1.3
ノンノ	3.2	2.8	2.3	0.8 <	5.0
コロコロコミック	2.5	2.0	2.1	3.8	0.3
おとなが読む雑誌	0.9	1.8	3.4	3.0	0.7
写真週刊誌	0.4	2.4	2.4	2.2	1.0
アンアン	1.1	1.4	0.3	0.4	1.6

「必ず読む」割合

(図6) 『少年ジャンプ』と『りぼん』×学業成績



## 2. 文学との接触

活字との接触という意味では、雑誌も読書の一部であろうが、読書の中心は、やはり本を対象としたものであろう。

そこで、さまざまな書名をあげて、そうした本を読んだことがあるかどうかを尋ねてみた。中学生たちの読書量が少ないことを予想して、「読んではいないが、読んでみたい」と思う項目を加えて調査を行ったが、それでも小計の欄が示すように、ほとんどの本を生徒が読んでいないのがわかる。「読んでいない」が6割以下、つまり、4割強の生徒が読んでいるのは『坊ちゃん』と『となりのトトロ』に限られていた(表15)。

もっとも、『となりのトトロ』は映画化され、それを観た者も少なくないと思われるので、実際に生徒たちが読んでいるのは『坊ちゃん』くらいなのであろうか。

そして、読んでいる本を属性別に調べたのが表16で、この中で、

男子=『ロードス島戦記』『機動戦士ガン

ダム』など

女子=『キッチン』『なんて素敵にジャパネスク』など

男女共通=『坊ちゃん』『吾輩は猫である』など

のように、同じ本でも男子向き、女子向きがあり、男女共通なのは『坊ちゃん』や『吾輩は猫である』などに限られている。

それと同時に、もうひとつ気になるのは、いくつかの例外を除くと、学年が上がっても、読んでいる本が増加しない点で、

	中1	中2	中3	中3-中1
伊豆の踊り子	5.8	7.6	8.6	2.8(%)
野菊の墓	6.2	13.2	7.2	1.0
二十四の瞳	26.8	32.1	30.1	3.3
坊ちゃん	43.9	44.6	40.2	-3.7

などの数値が得られている。中2から中3になると、受験勉強が忙しくなり、本を読んでいる心境になれないのであろうか。

(表15) 次の本を読んだか

(%)

	読んだことがない	読んでみたい	読んでいない 小計	読んだ		
				友だちに すすめた	もう一度 読みたい	つまらな かった
山椒太夫	91.7	4.8	96.5	0.2	2.2	1.1
こころ	87.9	8.6	96.5	0.4	1.9	1.2
伊豆の踊子	82.4	10.4	92.8	0.6	3.7	2.9
ロードス島戦記	79.2	12.9	92.1	1.4	4.9	1.6
野菊の墓	78.9	12.0	90.9	1.1	5.6	2.4
なんて素敵にジャパネスク	75.2	12.5	87.7	1.7	8.5	2.1
宇宙皇子	74.8	13.1	87.9	1.6	7.9	2.6
まんが家マリナシリーズ	71.9	13.7	85.6	2.6	9.6	2.2
キッチン	70.8	17.1	87.9	1.8	8.5	1.8
機動戦士ガンダム	67.4	10.7	78.1	1.8	15.7	4.4
ぼくらシリーズ	66.2	13.7	79.9	3.2	15.0	1.9
ドラゴンクエストⅢ	63.8	13.6	77.4	3.0	15.3	4.3
風の又三郎	60.0	17.8	77.8	2.2	13.5	6.5
三毛猫ホームズシリーズ	55.1	19.9	75.0	2.8	19.8	2.4
山田ババアに花束を	53.7	24.6	78.3	4.8	14.8	2.1
二十四の瞳	53.7	16.9	70.6	3.1	21.3	5.0
吾輩は猫である	50.2	22.7	72.9	1.6	18.4	7.1
シャーロックホームズシリーズ	44.9	19.7	64.6	3.7	27.9	3.8
坊ちゃん	41.2	15.8	57.0	3.8	26.2	13.0
となりのトトロ	39.1	17.5	56.6	4.6	35.4	3.4

(表16) 次の本を読んだか×属性

(%)

	学 年			性	
	中 1	中 2	中 3	男 子	女 子
山椒太夫	2.5	3.2	5.2	3.7	3.2
こころ	2.5	2.4	6.5	3.0	4.1
ロードス島戦記	6.9	7.6	9.7	12.6	> 2.8
伊豆の踊子	5.8	7.6	8.6	5.8	8.7
野菊の墓	6.2	13.2	7.2	4.1	14.4
なんて素敵にジャパネスク	11.7	11.2	14.4	2.2	< 23.0
宇宙皇子	11.4	12.5	12.6	13.2	10.8
まんが家マリナシリーズ	15.0	13.1	15.1	3.8	25.5
キッチン	9.9	12.4	14.5	3.0	< 21.9
機動戦士ガンダム	21.5	23.1	20.7	34.8	> 8.1
ぼくらシリーズ	21.4	19.0	20.0	19.7	20.5
ドラゴンクエストⅢ	26.3	23.2	16.4	31.5	> 12.8
風の又三郎	28.7	19.2	17.0	21.6	22.9
三毛猫ホームズシリーズ	23.4	23.0	29.4	18.0	< 32.4
山田ババアに花束を	21.4	21.1	22.5	5.6	< 38.7
二十四の瞳	26.8	32.1	30.1	19.8	< 39.9
吾輩は猫である	27.5	27.1	26.8	27.0	27.3
シャーロックホームズシリーズ	37.9	32.6	35.4	34.4	36.5
坊ちゃん	43.9	44.6	40.2	40.8	45.4
となりのトトロ	46.9	45.3	36.2	31.7	< 56.1

「読んだ」割合

### 3. 作家の知名度

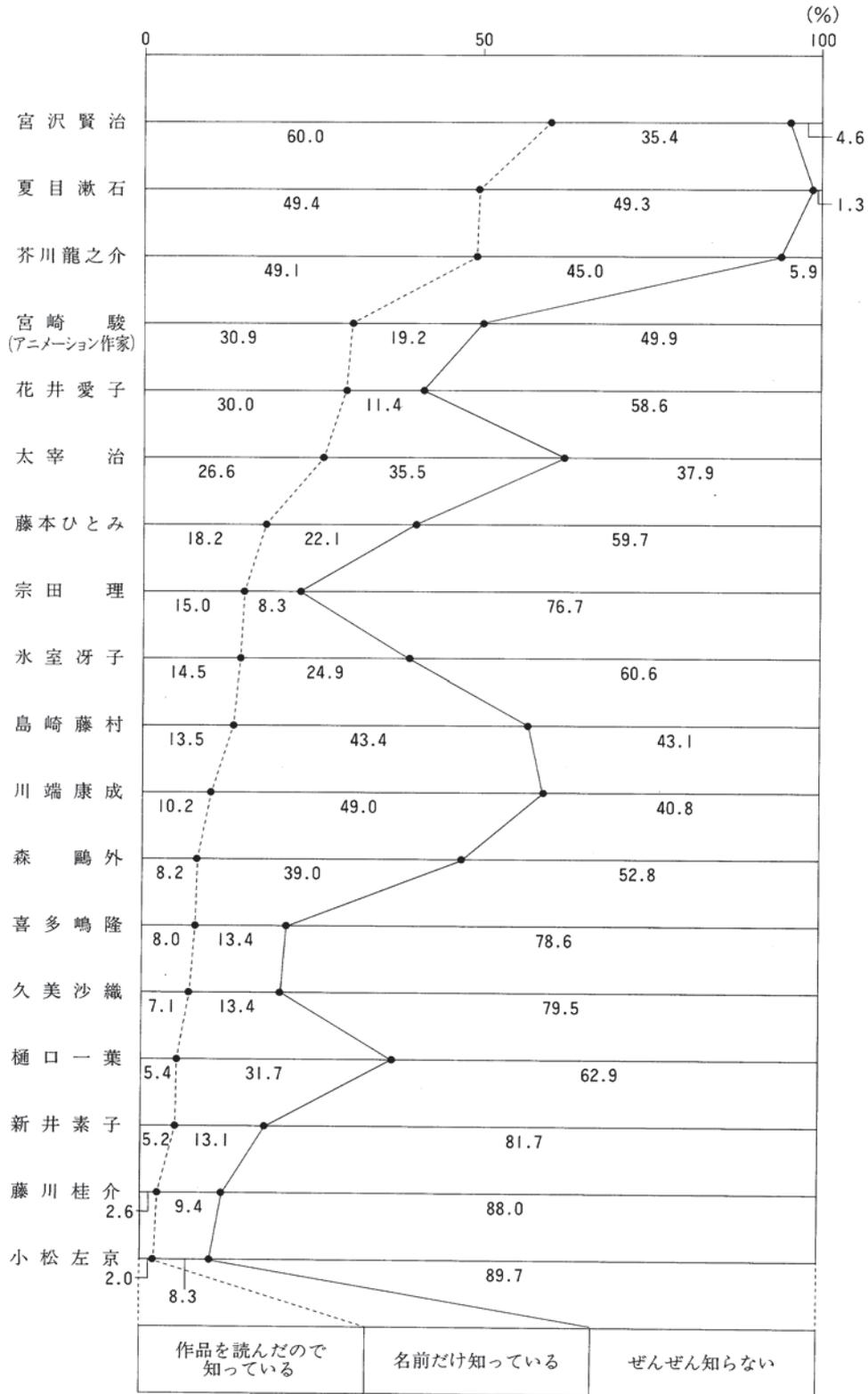
中学生たちの読書量は予想された通り、多いとはいえなかった。それでは、作品とは別に作家の知名度はどうか。

図7の通り、宮沢賢治と夏目漱石、芥川龍之介の知名度は高い。しかし、よく知られているのは、この3人くらいで、他の人はほとんど知られていない。表17に、知名度を属性別に分析した結果を示したが、学年が上がるにしたがって、太宰治(中1=9.1%、中3=43.3%)、島崎藤村(中1=5.1%、中3=27.0%)のように知名度の増す人も認められるが、そうした傾向はそれほど顕著ではなかった。

また、男女別に分析した結果では、ほとんどの項目で女子のほうが知名度が高かった。男子と比べ、女子のほうが文学好きなのであろう。

図8に、作家を知っているかと本好きとの関係を示した。図中のプロフィールから明らかかなように、すべての項目について、本好きの生徒のほうが、本を好きでない生徒よりも、作家の名をよく知っているのが目につく。本を好きな生徒は、ジャンルを越えて、作家に関心を持てるのであろう。

(図7) 知っている作家



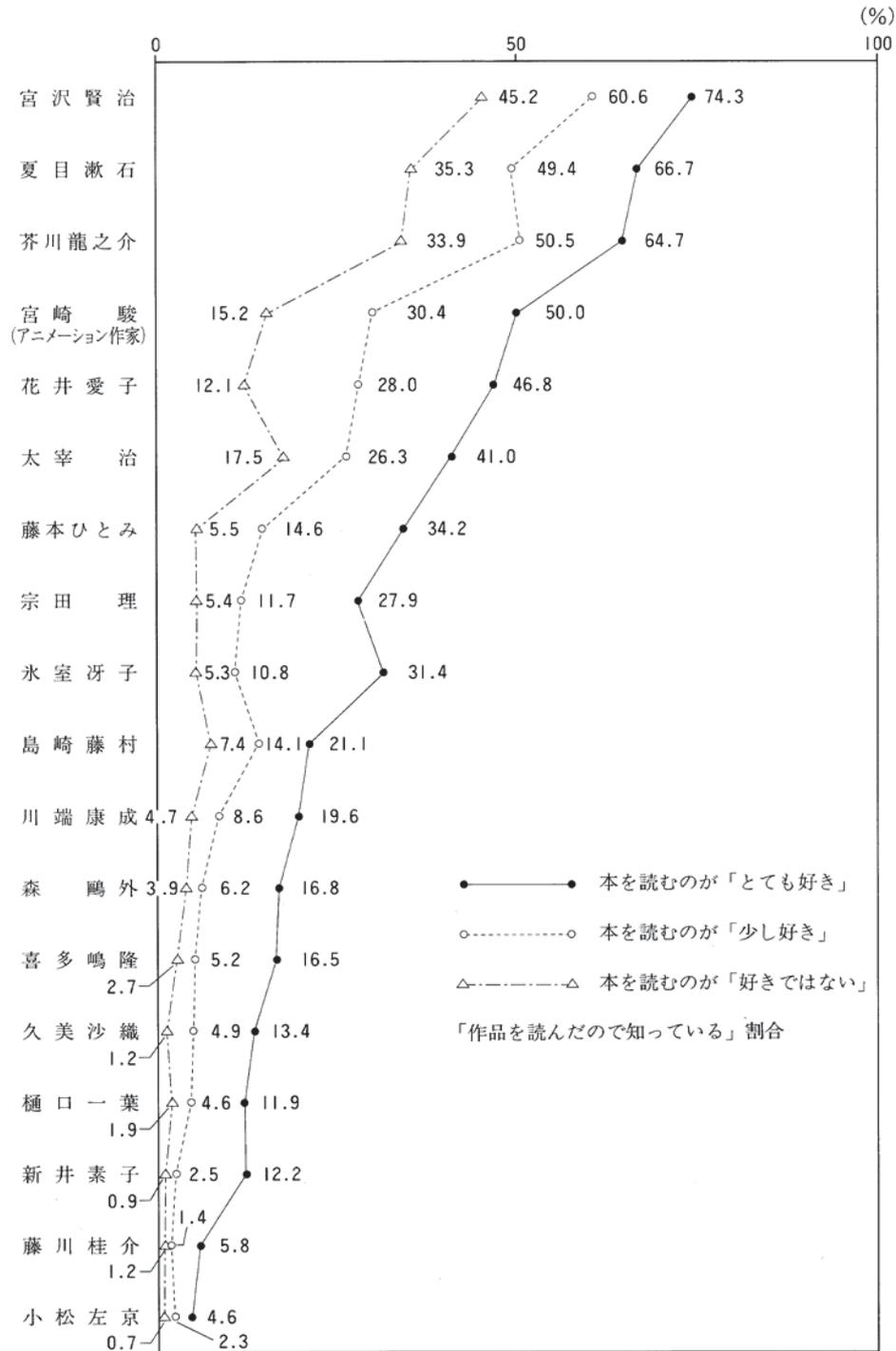
(表17) 知っている作家×属性

(%)

	学 年			性	
	中 1	中 2	中 3	男 子	女 子
宮 沢 賢 治	71.4	52.5	54.2	55.8 <	64.6
夏 目 漱 石	49.0	49.2	50.6	46.5 <	52.7
芥 川 龍之介	63.5	36.9	45.1	46.0 <	52.4
宮 崎 駿 (アニメーション作家)	33.6	28.0	31.0	23.7 <	38.7
花 井 愛 子	27.7 <	32.0	30.5	1.0 <	61.0
太 宰 治	9.1 <	32.0 <	43.3	26.2	27.2
藤 本 ひとみ	16.3	18.0	21.1	1.2	36.2
宗 田 理	14.3	12.7	19.1	13.1	16.9
水 室 冴 子	11.7	14.7	18.0	2.5 <	27.4
島 崎 藤 村	5.1 <	12.1 <	27.0	12.4	14.7
川 端 康 成	9.1	8.2 <	14.9	9.6	10.8
森 鷗 外	5.3	5.3	16.2	8.8	7.6
喜多嶋 隆	6.9	8.0	9.4	1.5	15.0
久 美 沙 織	5.1	7.6	9.1	1.2 <	13.3
樋 口 一 葉	2.7 <	4.1 <	10.9	4.4	6.5
新 井 素 子	5.5	4.5	5.5	1.4 <	9.2
藤 川 桂 介	1.9	3.5	2.4	2.6	2.6
小 松 左 京	1.5	2.2	2.6	2.7	1.3

「作品を読んだので知っている」割合

(図8) 知っている作家×本好き



## 4. 読書についての考え方

これまでふれてきたように、生徒たちはあまり本に接していないように思う。

それでは、生徒たちは、読書にどのような気持ちを抱いているのか。表18にマンガを読んでいるときの気持ちをまとめてみた。早く続きを読みたいと思い、夢中になって、時を忘れることも少なくないという。そして、そうした気持ちも、少女小説を読んでいるときの気持ち（表19）とそれほど変わっていないようで、図9のように、マンガにせよ、少女

小説にせよ、生徒たちは早く続きを読もうと思いつつ、ページをめくっている。

それでは、生徒たちは読書そのものについてどう考えているのか。表20（図10）のように、生徒たちの反応は以下のように要約できよう。

### ① そう思うもの

1. 本を読む子は物知り
2. 本を読むと考え方が深くなる

### ② そう思わないもの

（表18）マンガを読んでいるときの気持ち

	(%)			
	とても そう思う	わりと そう思う	あまりそう 思わない	ぜんぜんそう 思わない
早く続きを読みたい	77.9	16.1	4.2	1.8
夢中になって時間を忘れる	43.8	35.5	15.9	4.8
主人公のような人が身近にいてほしい	35.1	21.1	28.7	15.1
気晴らしになった	35.2	32.6	19.9	12.3
主人公のように生きたい	33.2	18.9	24.3	23.6
知らない世界をのぞいたような思い	23.1	21.7	34.8	20.4
だれかと話したい	21.9	24.7	31.5	21.9
充実した時間	21.2	23.4	35.2	20.2
生き方を学ぶ	12.8	14.8	39.6	32.8
勉強しなければと思う	9.1	17.2	36.5	37.2

1. マンガばかり読んでいるとダメになる
2. マンガは読まないほうがよい
3. 本を読む子はスポーツが苦手
4. 本を読んでいる子はネクラ
5. コバルト文庫は情報源

したがって、本を読んでいる子がネクラで、スポーツが苦手ということはないし、マンガを読むとダメになるというのは間違いだと思う。そして、本を読んでいるれば、考え方が深まるという見方をしている。

それでは、本を読めば考え方が深まると思っているのはどういう生徒なのか。表21に示すように、読書の効用について、学年が上が

っても、評価が高まることはない。また、読書の評価と学業成績との関連も乏しい。

したがって、読書の効用は、成長するにつれて、身につくという性質のものではないように思われる。そうした中で、本好きな生徒は読書の効用を信じている。

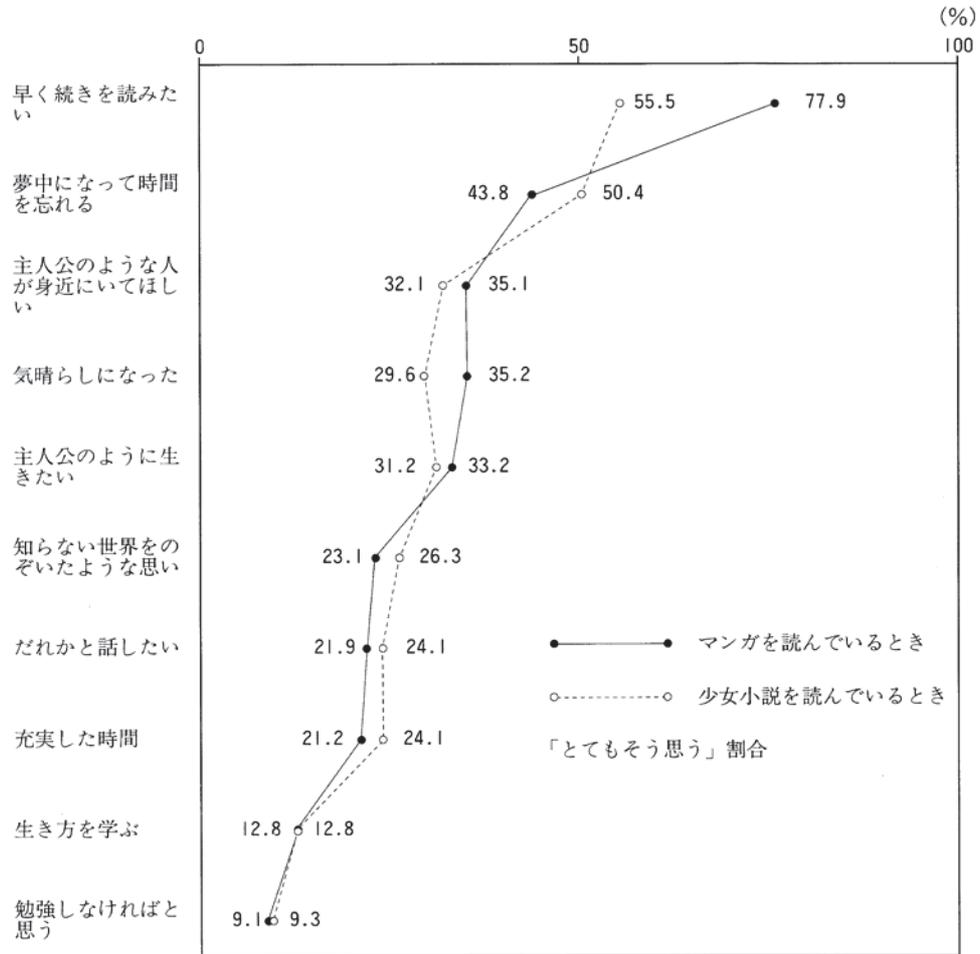
本好きな生徒は、本を読んでいるので本のよさがわかる。だから、読書はすばらしいと思えるのであろう。図11のように、本好きの生徒は考え方が深くなるだけでなく、その他の面でも、読書の効用を信じているように思える。

(表19) 少女小説を読んでいるときの気持ち

(%)

	とても そう思う	わりと そう思う	あまりそう 思わない	ぜんぜんそう 思わない
早く続きを読みたい	55.5	20.7	10.9	12.9
夢中になって時間を忘れる	50.4	27.1	9.9	12.6
主人公のような人が身近にいてほしい	32.1	23.6	27.1	17.2
気晴らしになった	29.6	31.2	22.7	16.5
主人公のように生きたい	31.2	20.9	28.7	19.2
知らない世界をのぞいたような思い	26.3	24.2	30.9	18.6
だれかと話したい	24.1	25.5	31.7	18.7
充実した時間	24.1	27.8	32.1	16.0
生き方を学ぶ	12.8	19.2	45.1	22.9
勉強しなければと思う	9.3	18.0	43.5	29.2

(図9) 本を読んでいるときの気持ち

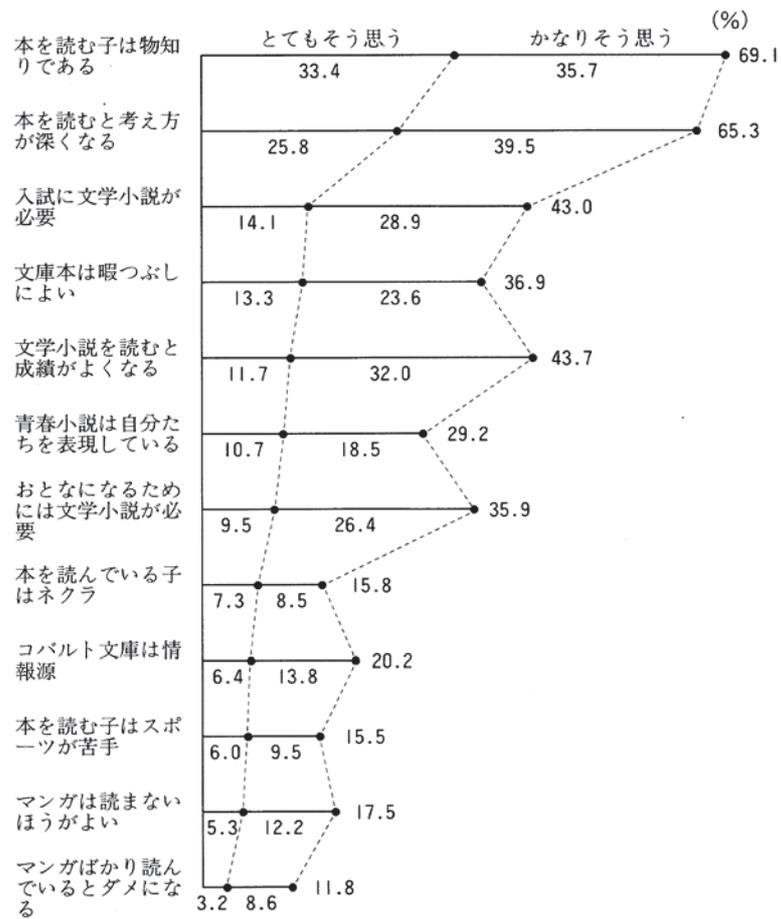


(表20) 読書についての考え方

(%)

	とても そう思う	かなり そう思う	あまりそう 思わない	ぜんぜんそう 思わない
本を読む子は物知りである	33.4	35.7	22.8	8.1
本を読むと考え方が深くなる	25.8	39.5	24.4	10.3
入試に文学小説が必要	14.1	28.9	43.3	13.7
文庫本は暇つぶしによい	13.3	23.6	38.7	24.4
文学小説を読むと成績がよくなる	11.7	32.0	43.3	13.0
青春小説は自分たちを表現している	10.7	18.5	42.1	28.7
おとなになるためには文学小説が必要	9.5	26.4	49.0	15.1
本を読んでいる子はネクラ	7.3	8.5	49.4	34.8
コバルト文庫は情報源	6.4	13.8	46.6	33.2
本を読む子はスポーツが苦手	6.0	9.5	48.7	35.8
マンガは読まないほうがよい	5.3	12.2	49.0	33.5
マンガばかり読んでいるとダメになる	3.0	8.6	44.6	43.8

(図10) 読書についての考え方

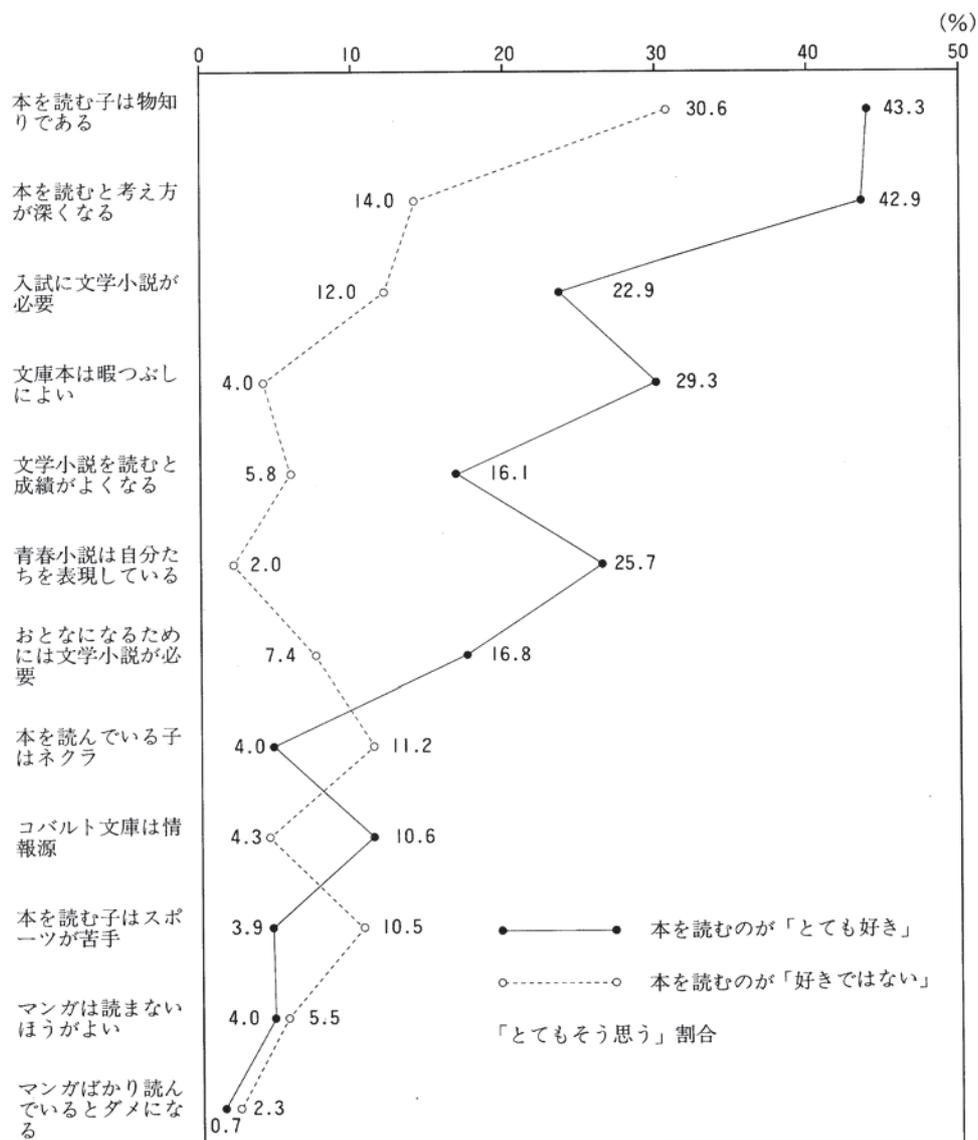


(表21) 本を読むと考え方が深まる×属性

(%)

		そう思う		そう思わない	
		とても	かなり	あまり	ぜんぜん
全 体		25.8	39.5	24.4	10.3
学 年	中 1	26.7	37.1	26.7	9.5
	中 2	25.8	41.5	23.4	9.3
	中 3	24.9	39.2	22.8	13.1
性	男 子	21.4	38.4	25.5	14.7
	女 子	30.6	40.4	23.3	5.7
学業成績	とても得意	32.7	36.5	20.2	10.6
	わりと得意	26.3	36.2	29.0	8.5
	ふつう	23.4	44.1	25.3	7.2
	苦 手	25.4	45.8	21.5	7.3
本 好 き	とても好き	42.9	38.1	13.6	5.4
	かなり好き	26.8	45.6	20.5	7.1
	少し好き	23.7	39.6	29.0	7.7
	好きではない	14.0	39.9	33.7	12.4

(図11) 読書についての考え方×本好き



## 第III章 読書好きを育てる環境



### 1. 図書館の利用

これまでふれてきたように、中学生になったからといって、読書好きの生徒がふえたようには思えないが、図12のように、生徒自身も中学生になってから読書量がふえたとは思えないと答えている。

それでは、生徒たちは、どこで本を読んでいるのか。図13のように、生徒たちは家の中で本を読んでいることが多い。

読書というと、図書館を連想する人も多だろう。かつて、そして今でも、図書館は読書好きの人にとってのオアシスだが、生徒たちは図書館を利用しているのだろうか。

表22のように、学校の図書館をまったく利

用しない生徒は67.3%、地域の図書館を使ったことがない生徒も47.3%に達する。しかも、利用したことがない生徒は、図14のように学年が上がるにつれて減少するどころか、増加の傾向を示している。

たしかに、生徒たちによれば、学校の図書館には読みたい本が少ないし(図15)、コバルト文庫やスニーカー文庫も置かれていない(図16)。だから、図書館へ行っても「ぜんぜん」の35.6%に「あまり」の20.0%を含めて55.6%が楽しくないという(図17)。

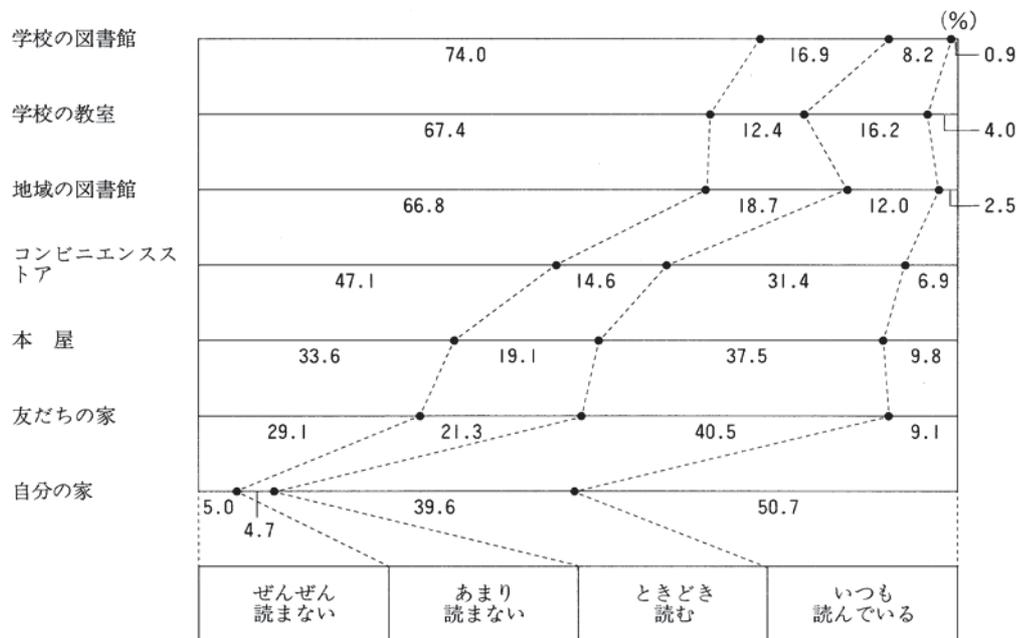
そう考えると、図書館に、まず魅力のある本を置くことが大事になるのかもしれない。

(図12) 小学校のころと比べた読書量

(%)

とても多くなっている	かなり多くなっている	変わらない	かなり減っている	まったく読まなくなっている
9.7	22.5	37.8	20.6	9.4

(図13) 本を読む場所

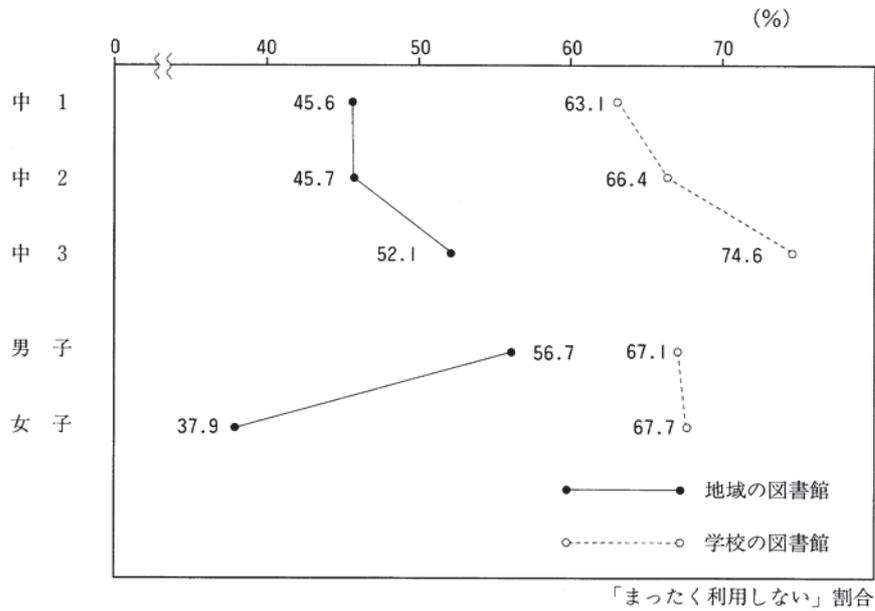


(表22) 図書館利用

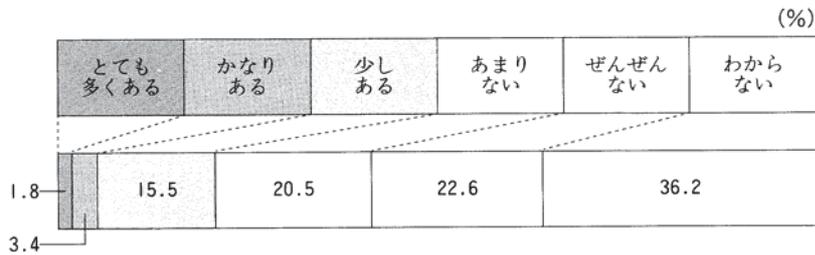
(%)

	ほとんど毎日	週に3~4回	週に1~2回	月に1~2回	学期に1~2回	まったく利用しない
学校の図書館	0.5	0.6	2.8	5.9	22.9	67.3
地域の図書館	0.9	0.5	3.7	10.7	36.9	47.3

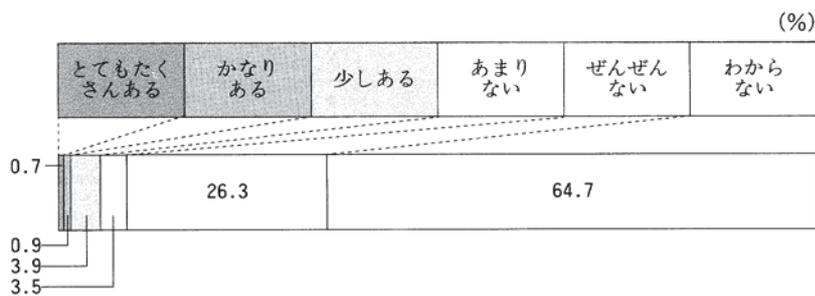
(図14) 図書館の利用×属性



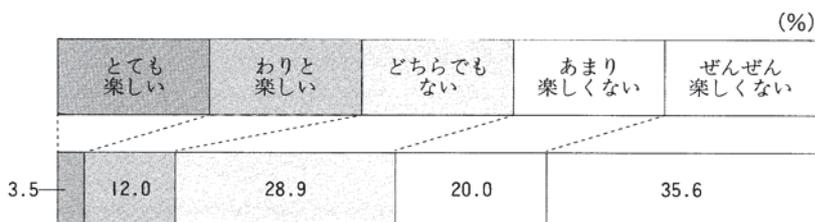
(図15) 学校の図書館に読みたい本があるか



(図16) 学校の図書館にコバルト文庫・スニーカー文庫があるか



(図17) 図書館へ行くことをどう思うか



## 2. 本好きの親かどうか

すでにふれた通り、生徒たちは家庭で本を読むことが多かった。そして、家庭にどれくらい本があるのかについて、図18のような結果が得られている。

そして、家庭に本があるかどうかと生徒が本好きとの関連については、表23の通りである。本が「とても好き」な生徒の40.1%は、本がとても多い家庭で育っている。それに対し、本が「好きではない」生徒の中で、本が

多い家庭の子は9.7%にとどまっている。

図19に、家庭の本の多さと本人の本好きとの関係がシャープにまとめられているが、それと同じ傾向が図20以下にも示されている。家の人が本を読むのが好きかどうかは、図20の通りである。

図19によれば、本の多い家庭の子は本好きであった。そうだとすれば、本好きの家庭の子が本好きになる可能性が強い。

(図18) 本が多くある家

(%)				
とても そう	かなり そう	少し そう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
24.8	23.2	27.5	19.1	5.4

(表23) 本がある×本好き

本好き		本がある	多 い			多くない	
			とても	かなり	少し	あまり	ぜんぜん
好き	とても	40.1	27.4	20.6	10.1	1.8	
	かなり	29.4	25.7	29.4	10.5	5.0	
	少 し	21.4	21.9	30.3	21.8	4.6	
好きではない		9.7	23.3	27.1	32.1	7.8	

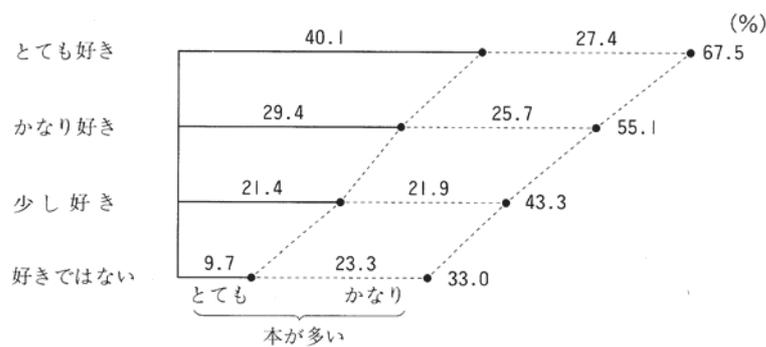
そこで、親の本好きと子どもの本好きとの関係をまとめると、表24の通りとなる。注記した通り、左上の22.9%は、子どもが「とても本が好き」の場合、その父親が「とても本が好き」の割合が22.9%であることを意味している。

そして、表24で興味をひくのは、子どもが本好きかどうか、父親はそれほど大きな影響をおよぼすことがなく、むしろ母親の存在のほうが強い意味を持っているように見える。図21の通りに、本好きの生徒の49.6%は母親が本好きなのに対し、本が好きでない生徒の中で、本好きな母親の占める割合は25.2%に

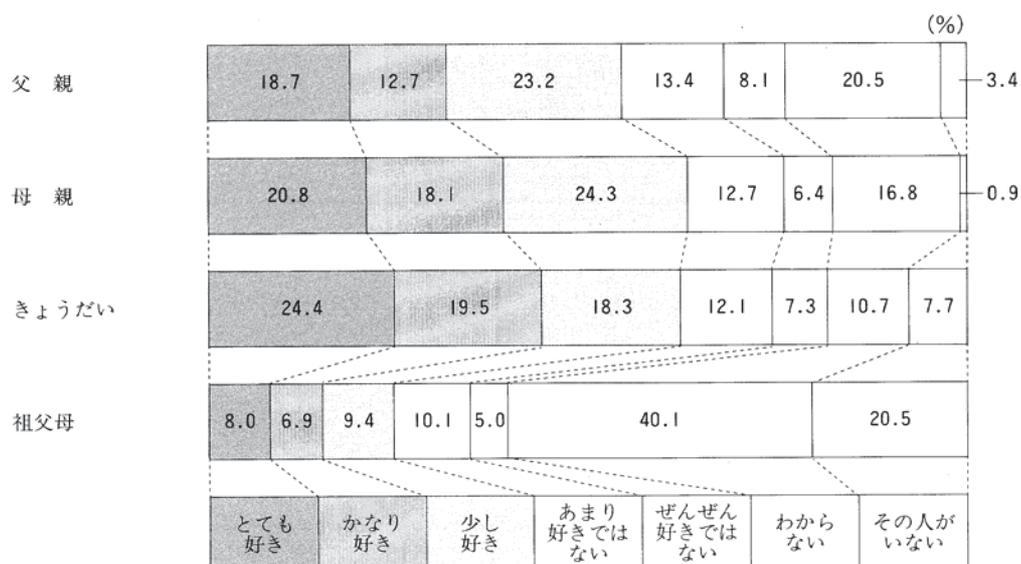
とどまっている。

そこで、もう一步ふみこんで、本好きというときに、どういう本を読んでいるのかをたしかめるために図22を作成してみた。さすがに、おとなの場合、趣味の本を読んでいる者が多いが、表25によれば、子どもの読書に影響を与えるのは、趣味の本や占いの本でなく、歴史小説や推理小説のように見える。ページをペラペラとめくるといって感じではなく、きちんと本を読んでいる姿勢が、子どもに影響をおよぼすのであろう。

(図19) 本がある×本好き



(図20) 家の人本を読むのが好きか



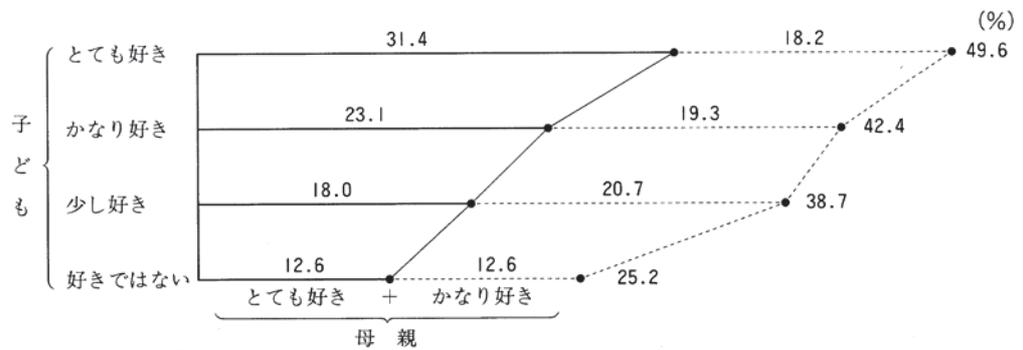
(表24) 本人が本好き×家の人の本好き

(%)

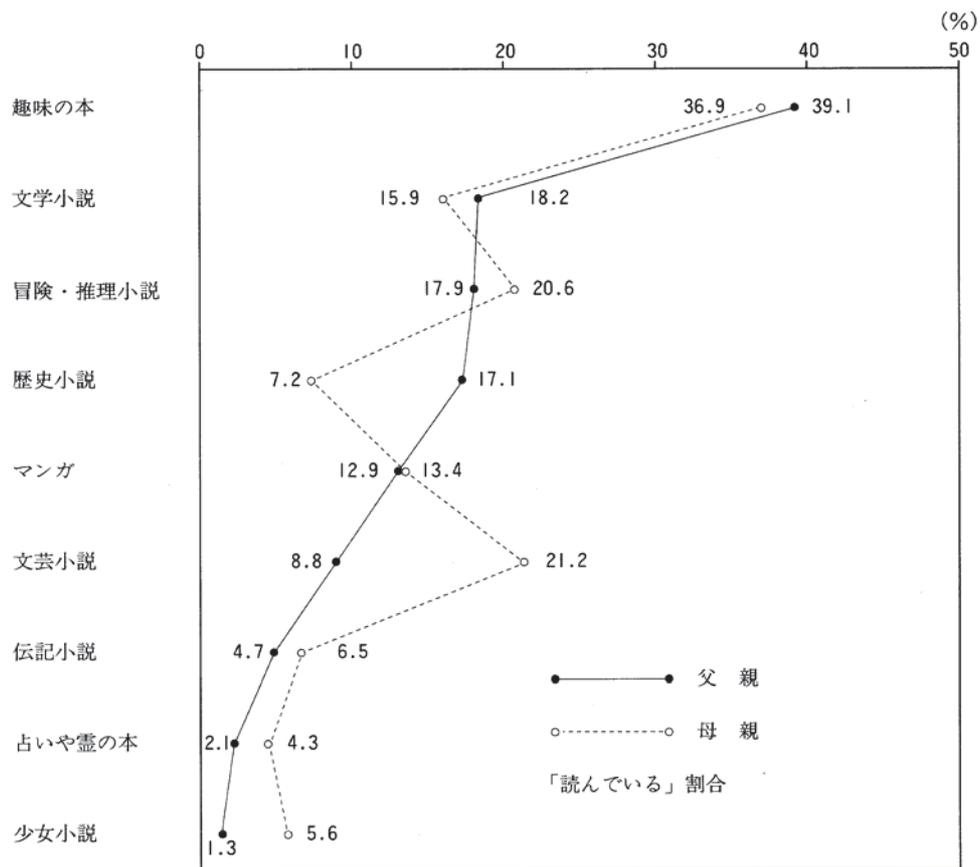
家の人	子どもの本好き	好 き			好きではない
		とても	かなり	少し	
父 親		22.9	17.4	20.4	12.6
母 親		31.4	23.1	18.0	12.6
きょうだい		29.5	28.0	22.7	20.4
祖父母		10.6	11.6	5.3	7.5

例) 22.9=子どもが本を読むのが「とても好き」な子の中で父親が本を読むのが「とても好き」な割合

(図21) 本人の本好き×母親の本好き



(図22) どんな本を読んでいるか (父と母)



(表25) 両親が読んでいる本のジャンル×本人の本好き

(%)

	父 親			母 親		
	とても好き	少し好き	好きではない	とても好き	少し好き	好きではない
趣味の本	44.6	38.5	40.9	39.9	25.5	42.8
文学小説	19.4	18.7	15.1	22.3	11.7	13.5
冒険・推理小説	22.9	> 18.4	> 12.0	26.8	> 20.1	> 13.9
歴史小説	20.0	> 16.1	> 12.7	11.8	5.6	5.8
マンガ	10.8	10.7	11.2	17.5	> 13.5	> 9.3
文芸小説	10.4	10.3	6.6	28.2	19.3	18.1
伝記小説	4.3	4.0	3.9	7.1	5.3	7.7
占いや霊の本	3.2	1.2	2.3	3.6	3.9	3.9
少女小説	1.3	1.1	1.2	7.9	3.9	5.0

例) 44.6=父親が趣味の本を読んでいる子の中で子どもが本を読むのが「とても好き」な割合

### 3. 本を読むためのしつけ

念のために、両親の最終学歴を調べてみた(表26)。そして、表27の通り、子どもの本好きと両親の学歴との関係は、それほどはっきりしていなかった。高学歴の親でも、本好きでない家庭の子は本好きにならない。そうした意味で、子どもが本好きになるかどうかを支えるのは、家庭に本が多く、そしておとなたちが本好きという読書環境なのであろうか。

そうだとしたら、親たちは幼いころから本についてのしつけを行ってきたと考えられるので、それを図23にまとめてみた。そして、表28の通り、本好きな子どもは幼いとき「本を買ってもらった」や「本を読んでもらった」、そして「本屋に連れていってもらった」などの割合が多い。

こう見てくると、家庭環境が大きな意味を持ってくるのが明らかだが、最後に、親のしつけ一般についての結果を図24に示した。そして、図25によれば、勉強の「とても得意」な生徒は、親たちから「勉強しなさい」「本を読みなさい」「友だちと仲よくしなさい」などと言われている割合が多い。それに対し本好きの子どもは、「家の手伝いをしなさい」と言われていることが多い(図26)。したがって、本好きの子どもを育てる家庭は、勉強好きの子を育てる家庭と、どこか雰囲気が違うのかもしれない。「こうしなさい」と強く言うことはなく、本人自身が本好きで、じっくりと子どもを見つめしつけている家庭から、本好きの子どもが育つと言ったのでは言いすぎなのであろうか。

(表26) 両親の最終卒業年齢

(%)

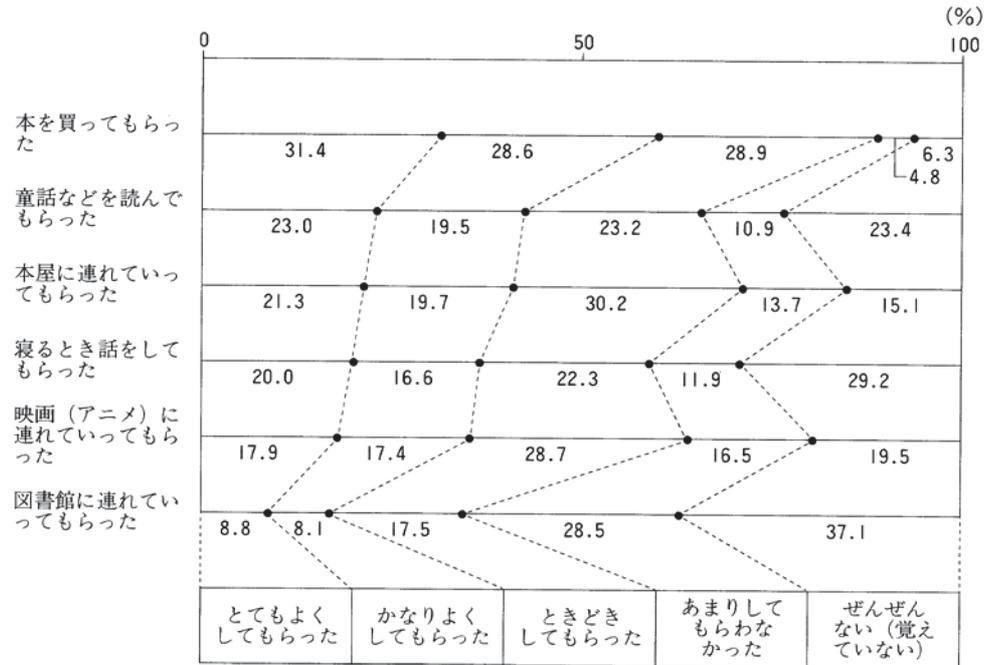
	15歳	18歳	20歳	22歳またはそれ以上	わからない
父親	7.0	23.3	3.3	17.9	48.5
母親	6.6	31.8	5.5	7.4	48.7

(表27) 両親の学歴×本人の本好き・学業成績

(%)

		父 親			母 親		
		短 大	大 学	小 計	短 大	大 学	小 計
子 ど も の 本 好 き	とても好き	2.2	21.5	23.7	6.5	8.4	14.9
	かなり好き	3.5	23.2	26.7	5.2	10.4	15.6
	少し好き	4.3	15.9	20.2	6.0	5.1	11.1
	好きではない	2.4	16.0	18.4	4.0	8.8	12.8
学 業 成 績	とても得意	1.0	30.4	31.4	9.8	10.8	20.6
	わりと得意	5.9	25.3	31.2	5.8	9.8	15.6
	ふつう	3.4	16.8	20.2	4.5	7.6	12.1
	苦 手	1.7	16.3	18.0	4.3	7.4	11.7

(図23) 小さいころの本のしつけ



(表28) 本のしつけ×本好き

	好 き			好きではない
	とても	かなり	少し	
本を買ってもらった	51.3	33.5	27.0	18.0
童話などを読んでもらった	38.0	21.5	20.4	12.4
本屋に連れていってもらった	41.2	20.3	17.4	9.4
寝るとき話をしてもらった	33.2	17.7	18.8	9.7
映画(アニメ)に連れていってもらった	26.3	14.9	15.7	13.4
図書館に連れていってもらった	20.7	9.7	5.7	1.2

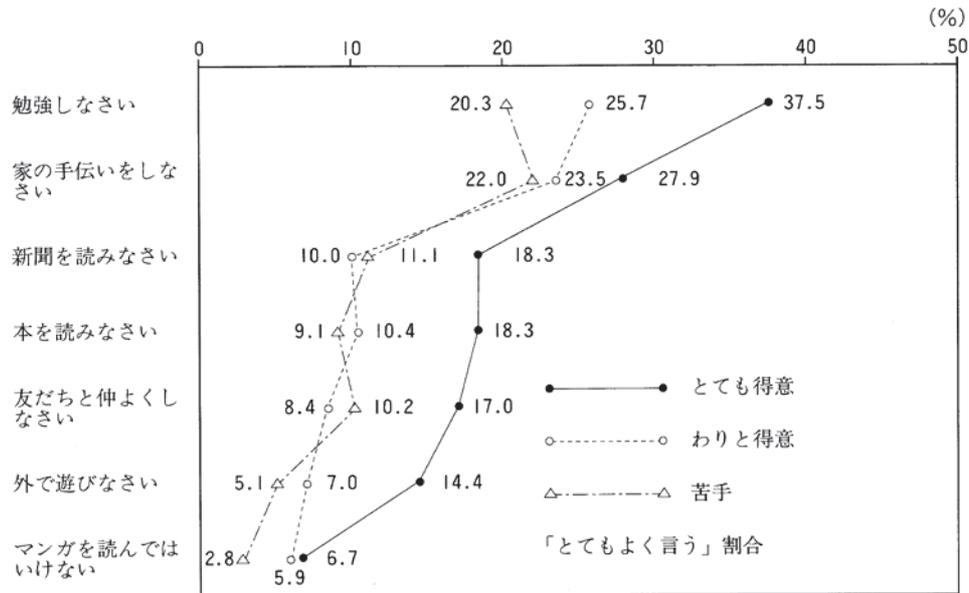
「とてもよくしてもらった」割合

(図24) 母親は言うか

(%)

勉強しなさい	25.9	23.0	26.9	17.0	7.2
家の手伝いをしなさい	24.8	21.7	29.8	14.2	9.5
新聞を読みなさい	11.5	9.0	17.3	27.6	34.6
本を読みなさい	10.6	11.3	23.9	29.8	24.4
友だちと仲よくしなさい	9.7	9.6	20.1	36.4	24.2
外で遊びなさい	7.6	6.7	19.4	36.0	30.3
マンガを読んではいけない	4.9	5.3	13.7	25.8	50.3
	とてもよく言う	かなり言う	ときどき言う	あまり言わない	ぜんぜん言わない

(図25) 母親のしつけ×学業成績



(図26) 母親のしつけ×本好き

